

甲斐市立竜王中学校 自己評価書

令和8年 1月9日(金) 作成

校長 坂本 公彦

記者者 教頭 林 健一郎

学校教育目標

- ◎ 自ら学ぶ生徒 (知育)
- ◎ さわやかで心豊かな生徒 (徳育)
- ◎ たくましく生きる生徒 (体育)

生徒の努力目標

- 確かな学力は「生きる力」……授業へ真剣に主体的に取り組もう。
- あいさつは「心の交流」……さわやかな挨拶をかわそう。
- 継続は「力」なり……根気よく心身の鍛錬に取り組もう。

- | | |
|---------------|--------------|
| ・自ら学ぶ授業にしよう | ・思いやりの心を育てよう |
| ・学校や仲間のために働こう | ・部活動を活発にしよう |

学校経営方針

(1) 第2次創甲斐教育推進大綱「学校教育指導方針」を具現化した教育を推進する。

(2) 学習指導

- ①一人ひとりの能力や適性を適確に把握し、個に応じる指導法の工夫・改善に努め、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。(ICTを効果的に活用した授業づくり、個別最適な学びと協働的な学びの充実)
- ②生徒の意欲や体験的な活動を重視し、既習事項を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成に努める。
(主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善)
- ③教科への興味関心を高め、学習意欲を引き出し、家庭学習に自主的に取り組む生徒を育てる。(家庭学習と授業の連動)
- ④「主体的に学習に取り組む態度」を育てるための評価の工夫。(学習の振り返り 行動観察 単元全体の振り返り)

(3) 生徒指導

- ①「凡事徹底」を心がけるとともに、規範意識を育み、基本的生活習慣の確立を図る。
- ②生徒一人ひとりを適切に理解し、好ましい人間関係を構築する。
- ③学校、家庭、地域、関係機関との密接な連携による生徒指導を推進する。
- ④不登校生徒に対する理解を深め、連携を密にし、生徒・保護者に寄り添った指導を行う。
- ⑤いじめの未然防止、早期発見、早期対応に全職員が共通理解のもと取り組む。

(4) 道徳指導 …「道徳的価値の自覚を促し、道徳的実践力を育てる」

- ①多様な他者を尊重し、思いやりの心を持ち、認め合い励まし合う態度を育てる。
- ②自立心や自立性を高め、規律ある生活をしようとする態度を育てる。
- ③教科としての道徳授業の改善に努め、道徳的実践力の向上に努める。

(5) 特別活動

〈学級活動〉

- ・望ましい学級集団づくりを通して、よりよい人間関係を築く。(Q-Uの活用)
- ・一人ひとりが役割と居場所のある学級づくりを進める。(所属感、自己有用感)

〈生徒会活動〉

- ・学校生活を楽しく充実したものにするため自治的集団活動を展開する。
- ・生徒の自主性、協調性を育成し、生徒相互の人間関係づくりを進める。
- ・校内、地域のボランティアを奨励し、母校、地域に貢献する態度を育てる。

〈学校行事〉

- ・学校生活をより豊かにする体験的活動を展開する。
- ・生徒自らが考え、行事を通して集団の成長するようなものにする。

(6) 保健・安全指導

- ①心身の健全な発達を図り、衛生的な環境づくりに努める。
- ②学校事故の防止、交通安全指導の徹底に努める。
- ③自他の命の大切さ、安全意識の向上について、計画的・系統的に指導し、自ら災害や危険から身を守る態度を養う。
- ④ラジオ体操を奨め、体力作り一校一実践を推進する。

(7) 給食指導

- ①給食指導を通して、食に対する基本的知識を身につけさせる。
- ②望ましい食事マナーを身に付けさせる。(服装、配膳、片付け、あいさつ等)

(8) 情報教育

- ①1人1台端末によるICTの効果的な活用を推進する。
- ②SNSの利用、スマホ使用時間など、ネット使用に関する課題や情報リテラシーについて学習する機会を持つ。

(9) 国際理解教育

- ①諸外国の歴史や文化等について理解をすすめ、我が国の文化や伝統を尊重する態度を養う。
- ②キオカック(アメリカ)、タラマラ(オーストラリア)との国際交流を進める。

(10) 環境教育

- ①環境美化、環境保全、資源の有効活用などについて、主体的に考え行動できる資質を養う。

(11) 特別支援教育

- ①あすなる、かしのきの特別支援学級担当者相互、他の教職員、保護者及び関係機関との連携を進め、全職員が特別支援教育への共通理解を図る。
- ②個々のニーズや困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫し、個別の支援を充実させる。
- ③自立心を養い、交流や共同学習の場面を通して円滑な人間関係を築けるよう育てる。

(12) 読書教育

- ①心を豊にする読書教育を積極的に行う。(朝読書の継続的な実施)
- ②授業で図書館の活用を進める。

(13) 保護者・地域との連携

- ①学級・学年・学校だより等の発行、学校ホームページによる情報発信に努める。
- ②安心安全メールを効果的に活用し、必要な情報発信を行う。
- ③保護者・地域の願いを把握し、地域に根ざした教育の推進を図る。
(学校開放日、PTAとの連携、地域人材の活用、地域貢献活動)

I 全体評価 【 】内の数値は昨年度からの変化。

○〈教職員〉39の評価項目のうち全項目で、肯定的評価[A(とてもそう思う)+B(そう思う)]が80%を超えた。 【36項目→39項目(+3項目)】

△〈教職員〉全39項目中、Aが最頻値の項目が3項目、Bが最頻値の評価項目が27項目であった。 【A:11項目→3項目(-8項目)、B:28項目→36項目(+8項目)】

最頻値がA→Bに低下した質問項目

- I-② 学年の計画が教育目標や重点目標を踏まえたものになっている (-29%)
- I-③ 学校の教育目標に基づき、実態に即した教育実践を行っている (-26%)
- II-③ 他の教員と連携して、共同体制で教育活動にあたっている (-13%)
- IV-⑥ 生徒一人一人を大切に、愛情と信頼に基づく生徒指導を行っている (-23%)
- V-⑤ 地域・保護者と連携し、児童生徒の安全確保に努めている (-10%)
- V-⑥ 地域の声を学校に生かそうとしている (-29%)
- VI-① 生徒が進んで挨拶するように指導に努めている (-9%)
- VI-③ 学校行事や校外学習などの教育活動に進んで取り組むよう、指導に努めている (-19%)

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
<p>※ 結果の検討・考察の前提として</p> <p>本年度より、すべてのアンケートをマークシート用紙提出方式から Web 回答方式へと変更した。このため、昨年度と比べると、保護者アンケートの回答率が大幅に低下した。（回答率 93.9%→63.3%）そこで、本年度は保護者アンケート結果については経年比較を行わないこととし、傾向のみを読み取ることとする。</p>	
<p>I 学校教育目標に関して・学校経営について 【 】内の数値は昨年度からの変化。</p>	
達成状況	<p>○〈教職員〉全5項目で肯定的評価が90%以上であった。 【昨年度も同様】</p> <p>「①学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動を行っている」</p> <p>「②学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。」</p> <p>「⑤職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。」</p> <p>の3項目は、肯定的評価（A+B）が100%であった。 【-1項目】</p> <p>△5つの項目すべてにおいて、最頻値がBであった。 【最頻値Aの項目、-2項目】</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、学校教育目標や学校経営方針の共有をすすめ、教育活動を展開する。 引き続き校務システムの勤務時間管理を活用し、職員の意識改革を行いつつ働き方改革を進める。 すべての項目で最頻値が「B」となっていることから、学校がめざすところをさらに明確化し、職員に共有していく必要がある。
<p>II 学校運営について 【 】内の数値は昨年度からの変化。</p>	
達成状況	<p>○〈教職員〉全8項目で肯定的評価が80%以上であった。 【+1項目】</p> <p>△〈教職員〉8項目中6項目で、最頻値がBであった。 【最頻値Aの項目、-1項目】</p> <p>1 校内業務</p> <p>○〈教職員〉「①危機管理マニュアル（防犯、防災、事件、事故等）を理解している」という項目に対する肯定的評価が増加した。 【80.6%→96.8%(+16.1%)】</p> <p>○〈教職員〉「⑧適材適所の校務分掌がなされ、負担について配慮がなされている」という項目に対する肯定的な評価が増加した。 【79.3%→87.1%(+7.8%)】</p> <p>△〈教職員〉「⑦業務の効率化等の働き方を意識して職務にあたっている。」という項目に対する肯定的評価が減少した。 【92.9%→87.1%(-5.8%)】</p> <p>2 情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 〈保護者〉「④学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる」という質問項目に対する肯定的回答は9割を超える。（93.0%） 〈保護者〉「⑥授業参観日や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている」という質問項目に対する肯定的回答は、9割を超える。（96.7%）
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルの周知については、ワンペーパーマニュアルの作成やヒヤリハット事例の紹介などを通じて、意識の向上が図られた結果であると考えられる。今後も、学校の実態に即したマニュアル作りと周知・徹底を進める。 4、5月の月水金を5時間日課とし、ゆとりを持たせるなどの工夫や、業務の精選が「配慮がなされている」という回答に結び付いたと考えられるが、一方で個々の業務効率化の意識は低下していることから、自己の働き方について意識変革を促す取り組みを進める。 職員不足と多忙化のため、職員が一堂に会して情報交換をする場が持たなくなっている。個々の職員が業務や課題を抱え込んで孤立することのないよう、情報交換・共有の機会を大切にし、職員集団が一丸となって学校運営にあたるようにする。 積極的な情報発信と学校開放に努めつつ、保護者からの意見を真摯に受け止め、学校運営の改善を図ることで「子ども・保護者・地域から信頼される学校」作りをすすめる。

Ⅲ 学習指導について(生徒用・保護者用アンケート含む) 【 】内の数値は昨年度からの変化。

- 〈教職員〉全7項目で肯定的評価が80%以上であった。 **【昨年度も同様】**
- ・〈教職員〉全7項目で最頻値がBであった。 **【昨年度も同様】**

1 学校での学習状況

- 〈保護者〉「⑧学校は熱心に授業に取り組んでいると思う」という質問項目に対する肯定的回答は9割近い。(87.8%)
- △〈保護者〉「③学校は、一人ひとりの学力向上に力を入れて取り組んでいる」という質問項目に対して、「わからない」と回答する保護者が多い。(24.4%)
- 〈生徒〉「⑤先生はよく勉強を教えてくださいか」という質問項目に対して、肯定的な回答が100%近い。 **【97.2%→99.1%】**
- 〈生徒〉「④学校の授業は楽しいですか」という質問項目に対して、肯定的な回答が増加した。 **【79.0%→89.1%(+10.1%)】**
- 〈生徒⑥⑦⑧〉「(各教科の)授業の内容はわかりますか」という質問項目に対して、肯定的な回答が増加した。 **【国語 94.4%(+4.0%)、数学 84.7%(+2.8%)、英語 75.1%(+9.9%)】**

2 家庭での学習状況

- 〈教職員〉「⑥宿題や家庭学習に対する指導を行っている」という項目に対する肯定的評価は、8割を超える。 **【76.7%→80.6%(+4.0%)】**
- 〈保護者〉「⑫お子さんは、宿題(課題)を忘れずにしていますか」という質問項目に対する肯定的回答は8割を超える。(82.6%)
- ▲〈生徒〉「⑯平日、学校以外で学年の目標時間の勉強(1年70分、2年80分、3年90分)をしていますか。」という質問項目に対して、「あまりしていない」「していない」と回答する生徒が半数を超える。 **【46.7%→50.8%(+4.0%)】**

3 クロス集計の結果

- ▲〈生徒〉⑯目標時間以上の勉強を「あまりしていない」「していない」と回答した生徒のうち、⑥～⑧「(国数英の)授業の内容が「わからない」と回答する割合は、平均で約4倍多かった。
- ▲〈生徒〉⑰家で自分で計画を立てて勉強を「あまりしていない」「していない」と回答した生徒のうち、⑥～⑧「(国数英の)授業の内容が「わからない」と回答する割合は、平均で約3倍多かった。
- ▲〈生徒〉⑱一日の読書時間が「30分未満」と回答した生徒のうち、⑥～⑧「(国数英の)授業の内容が「わからない」と回答する割合は、平均で約3.5倍多かった。
- ▲〈生徒〉⑲一日のスマホ使用時間が「3時間以上」と回答した生徒のうち、⑥～⑧「(国数英の)授業の内容が「わからない」と回答する割合は、平均で約3.5倍多かった。

4 その他、学習に関わる項目

- △〈生徒〉「⑨人前でしっかり自分の意見を言うことができますか」という質問項目に対する肯定的回答は微増しているが、8割に届かない。 **【70.9%→72.9%(+2.0%)】**
- △〈生徒〉「⑩字をていねいに書くようにしていますか」という質問項目に対する肯定的回答は増加しているが、8割に届かない。 **【65.8%→72.3%(+6.5%)】**
- △〈生徒⑰・保護者⑭〉「平日一日あたりどのくらいの時間、読書をしていますか」という質問項目に対して、「全くしない」と回答する割合が依然4割～5割を占める。

達成状況

改善策

- ・子供主体の授業への転換を進める中、「④学校の授業が楽しい」「⑥～⑧(国数英の)授業の内容がわかる」と回答する割合が増加していることは良い傾向といえる。一方で、「⑨人前で意見を言える」「⑩字をていねいに書く」に対する肯定的回答が伸び悩んでいることから、今後はアウトプット(他者に伝える)ことを意識した授業改善が必要であると考えます。
- ・家庭学習については、自分で計画を立て、決められた時間取り組むことを苦手とする子どもが、学びから取り残される傾向が見て取れる。基礎・基本の定着については定量の課題、発展的な学習については適切な課題設定を考えるなど、家庭学習の方法について、考える必要がある。

IV 生徒指導について(生徒用・保護者用アンケート含む) 【 】内の数値は昨年度からの変化。		
達成状況	<p>○〈教職員〉全6項目で肯定的評価80%以上であった。 【昨年度も同様】</p> <p>△〈教職員〉全6項目で、最頻値がBであった。 【最頻値Aの項目、-1項目】</p> <p>1 生徒・保護者とのコミュニケーション</p> <p>○〈生徒〉「⑩困ったことがあったら、相談できる先生がいますか」という質問項目に対して「いる」という回答が増加した。 【77.5%→88.5(+10.0%)】</p> <p>○〈生徒〉「㉕先生は、あなたの良いところを認めてくれていますか」という質問項目に対する肯定的回答が90%を超えている。 【93.9%→94.7(+0.8%)】</p> <p>○〈保護者〉「⑩お子さんのことで相談できる先生はいますか」という質問項目に対する肯定的評価が8割を超える。(80.8%)</p> <p>2 問題行動への対応</p> <p>○〈教職員〉「⑥生徒一人ひとりを大切に、愛情と信頼に基づく生徒指導を行っている」という評価項目に対する肯定的回答が100%であった。 【昨年度も同様】</p> <p>○〈保護者〉「⑦学校は、子どもたちの間違っただ行動などに対して、指導していると思う」という質問項目に対する肯定的な回答が9割近い。(87.8%)</p> <p>3 楽しい学校</p> <p>○〈生徒〉「①学校は楽しいですか」という質問項目に対する肯定的回答が増加した。 【89.6%→94.4(+4.8%)】</p> <p>○〈保護者〉「①お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う」という質問項目に対する肯定的回答が9割近い。(89.7%)</p>	
	<p>・生徒指導は問題行動に対する対応だけではないことから、引き続き、日常的にすべての生徒を対象とした生徒観察に努め、生徒の困り事や悩みに向き合い、生徒に寄り添った指導を行い「安心・安全な学校」をつくる。毎月の「生活アンケート」の結果を待って困りごとや問題に対応するだけでなく、平素から積極的に子どもと関わる中で些細な変化も見逃さずに指導につなげる体制を今後も大切にしたい。</p> <p>・学校が楽しいと感じる生徒が多い一方で、不登校生徒数が多いことが本校の課題である。ふれあい教室の活用を進めるとともに、個々のニーズを捉えつつ、プリント学習やオンライン学習など、多様な学びの場・方法を提供していく。</p> <p>・特別な支援を必要とする生徒も年々増加傾向にあることから、個々の特性に向き合い、それぞれに対応した多様な学びをきめ細かく実施していく。また、インクルーシブが重視される昨今、通級指導の重要性が増してきていることを踏まえ、個別に柔軟な対応ができる体制を整える。</p> <p>・ネットが介在したトラブルが問題となる中、SNS等の適正な利用について、ネット集会を開く等の取り組みを進める中で、トラブルに巻き込まれることが少なくなっていると考えられる。引き続き、未然防止と早期対応の取り組みを積極的に進める。</p>	
	改善策	

V 地域との連携について(生徒用・保護者用アンケート含む)【 】内の数値は昨年度からの変化。

- 〈教職員〉全6項目で肯定的評価80%以上であった。 **【5項目→6項目(+1項目)】**
- △〈教職員〉6項目中5項目で、最頻値がBであった。 **【最頻値Aの項目、-2項目】**

1 情報公開・情報共有

- 〈保護者〉「④学校(学年・学級)だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる」という質問項目に対する肯定的回答は9割を超える。(93.0%)
- 〈保護者〉「⑥授業参観日や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている」という質問項目に対する肯定的回答は9割を超える。(96.7%)
- 〈保護者〉「⑤学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けている」という質問項目に対する肯定的回答は8割を超える。(85.4%)
- 〈保護者〉「⑪PTA活動に参加していますか」という質問項目に対する肯定的回答は7割に満たない。(66.2%)
- 〈生徒〉「⑨家の人と学校での話をしていますか」という質問項目に対する肯定的回答が増加した。 **【77.1%→82.6%(+5.4%)】**
- 〈保護者〉「⑭お子さんは学校での出来事をよく話しますか」という質問項目に対する肯定的回答は7割を超える。(72.3%)

2 地域活動への参加

- 〈生徒〉「⑲今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問項目に対する肯定的回答が増加した。 **【59.0%→69.5%(+10.5%)】**
- 〈保護者〉「⑳今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問項目に対する肯定的回答が微増した。 **【50.9%→53.5%(+2.6%)】**

3 地域人材の活用

- 〈教師〉「①地域の教育力を生かす指導を行っている」という質問項目に対する肯定的回答が増加した。 **【71.0%→80.6%(+9.7%)】**

達成状況

改善策

- ・引き続き、積極的な情報発信と学校開放に努めつつ、保護者からの意見を真摯に受け止め、学校運営の改善を図ることで「子ども・保護者・地域から信頼される学校」作りをすすめる。
- ・学校からの情報がホームページやメールを通して入手できるようになった一方で、子どもから直接話を聞く機会が減少することは避けたい。電子上の情報提供とともに、親子のコミュニケーションを通じた情報提供も大切にする。
- ・コミュニティ・スクールに移行したことを踏まえ、今後は保護者に対する情報発信だけでなく、地域への情報発信の方策を考える必要がある。
- ・地域行事への参加については、今後も積極的な参加を促したい。
- ・PTA活動については、本年度より新たな組織で運営しているが、今後も活動が形骸化しないよう、多くの保護者を巻き込む活動を継続していきたい。
- ・地域人材の活用については、今後も積極的に活用を進めたい。

VI 学校の特色に関して(生徒用・保護者用アンケート含む) 【 】内の数値は昨年度からの変化。

- 〈教職員〉全4項目で肯定的評価が80%以上であった。 **【昨年度も同様】**
 △〈教職員〉全4項目で、最頻値がBであった。 **【最頻値Aの項目、-2項目】**

1 あいさつ

- 〈生徒〉「②誰とでも挨拶をしていますか」という質問項目に対する肯定的回答が増加した。 **【88.7%→93.1%(+4.4%)】**
 ○〈保護者〉「⑳学校は、子どもたちに学校以外でも挨拶をするように指導していると思う」という質問項目に対する肯定的回答は7割を超える。(72.8%)
 ○〈保護者〉「⑲御家庭では、お子さんにあいさつをするように言っていますか」という質問項目に対する肯定的回答は9割を超える。(90.6%)

2 信頼関係

- 〈教職員〉「④生徒と教師の信頼関係は良好である」という評価項目に対する肯定的評価が100%であった。 **【昨年度も同様】**
 ○〈生徒〉「⑪困ったことがあったら、相談できる先生がいますか」という質問項目に対して「いる」という回答が増加した。 **【77.5%→88.5%(+11.0%)】**
 △〈保護者〉「⑩お子さんの事で、相談できる先生がいますか」という質問項目に対する肯定的回答は8割を超える。(80.8%)

3 読書活動

- △〈生徒⑰・保護者⑭〉「平日一日あたりどのくらいの時間、読書をしていますか」という質問項目に対して「2時間以上」と回答する生徒が微増する一方、「30分に満たない」「全くしない」と回答する割合が6割を超える。

1週間当たりの読書時間	生徒⑰	保護者⑭
2時間以上	5.9%(+2.2%)	0.9%(-1.7%)
30分未満	28.7%(+0.6%)	27.2%(+4.4%)
全くしない	37.4%(-2.3%)	50.2%(-0.5%)

達成状況

改善策

- ・あいさつについては、家庭内でも子供に対して指導をしてくれていることがうかがえる。引き続き、生徒・保護者との信頼関係の構築を大切に、保護司の皆さんによる毎月のあいさつ運動の力も借りつつ、さわやかなあいさつを交わす生徒を育成する。
- ・「相談できる先生がいる」と回答する生徒や保護者が多く、学校と生徒・保護者との間に信頼関係が醸成されていることがうかがえる。
- ・読書活動については、学校での「朝読書の時間(10分)」をきっかけにした、家読の習慣化をすすめる方を検討する必要がある。

Ⅶ 創甲斐教育について(生徒用・保護者用アンケート含む) 【 】内の数値は昨年度からの変化。

- 〈教職員〉全3項目で肯定的評価が80%以上であった。 **【昨年度も同様】**
- △〈教職員〉全3項目で、最頻値がBであった。 **【昨年度も同様】**

Ⅰ 国語力の向上・自己表現力の向上

- 〈教職員〉「①あなたの学校は、国語力向上のための取り組みが行われている」という質問項目に対する肯定的回答は9割を超えた。 **【93.3%→93.5%(+0.2%)】**
- 〈教職員〉「②あなたの学校は、自己表現力向上のための取り組みが行われている」という質問項目に対する肯定的回答は100%であった。 **【93.5%→100%(+6.5%)】**
- △〈生徒〉「④人前でしっかり自分の意見を言うことができますか」という質問項目に対する肯定的な回答の割合が微増した。一方で、表現を苦手とする生徒も3割近くいる。 **【肯定的回答 70.9%→72.9%(+2.0%)】**
- △〈生徒〉「⑩字をていねいに書くようにしていますか」という質問項目に対する肯定的な回答の割合が増加(+6.5%)した。一方、字を丁寧に書かない生徒も3割近くいる。 **【肯定的回答 65.8%→72.3%(+6.5%)】**

Ⅱ 体力の向上

- 〈教職員〉「③あなたの学校は、体力向上のための取り組みが行われている」という質問項目に対する肯定的回答が増加した。 **【90.0%→96.8%(+6.8%)】**

- ・国語力・表現力を高める取り組みは、全教育活動を通じて行われなければならない。特に、表現力と字を書くこと(=アウトプット)に課題を感じている生徒が多い事に留意し、指導をすすめる。具体策としては、対話的な学びや協働的な学びをすすめる、コミュニケーション能力を育成する。また、タブレットを使った学習ばかりでなく、文字を書く事も大切な学習の一部であることを意識した授業改善をすすめる。
- ・体力の向上については、部活動への参加の自由化や体育的行事が縮小されていく中で、運動の機会が少なくなる傾向にあるが、体育の授業を中心に、子供たちの体力低下を招かないよう、留意する。

達成状況

改善策

3 まとめ

<成 果>

- ・昨年度より肯定的評価が増加している項目が多い結果となったが、大まかにいえば、学校運営が改善していることの表れであると言える。しかし、細かいところを見ていけば、まだまだ課題は残っているため、今後はそれらの課題と向き合っていくための策を確実に実行したい。
- ・多くの項目において、教職員の評価と生徒・保護者の回答に同様の傾向が見て取れる。これは、学校と、生徒・保護者が同じように課題を感じ、同じ方向を向いて改善しようとしていることの証だと言える。今後とも、生徒・保護者との関係性や情報共有を大切にしたい学校運営を心がけたい。
- ・本校が大切にしている「あいさつ」について、あいさつを「している」と回答する生徒が変わらず多いことは喜ばしい限りである。今後とも、保護司の皆さんによる毎月のあいさつ運動、生徒会主体で実施している小中連携あいさつ運動、校内でのあいさつ活動などを通して、社会に通用する人間として、「まずはあいさつがきちんとできる生徒」を育成したい。

<課 題>

- ・教職員の自己評価から見られる課題点は、2点あげられる。1点目は肯定的回答が全項目で8割を超える中で、最頻値Aの質問項目が大きく減ったことである。謙遜を差し引いたとしても、教職員が自らの教育活動に自信を持って臨めるよう、相互の教育観や指導方法を尊重しつつ、チームとして指導にあたる組織の構築が急務である。2点目は多忙化の解消である。日課時程の変更等によって、ハード面での働き方改革は進んできてはいるが、職員個々の意識変革は、まだまだ改善の余地がある。職員自身が労働の質と量を見直し、改善していく取り組みを促したい。職員不足が問題となる中、手が回らない業務が増加することも懸念されるが、学校の本分である「子どもとかわかること」に関する業務だけはおろそかにならないよう、注意していきたい。
- ・生徒アンケートから見て取れる最大の課題は学習に関する課題である。
 - 各教科の授業が「わかる」と回答する割合が、教科ごとに大きく差があること
 - 家庭学習の時間が少ないことなどからも、より一層の授業改善をすすめなければならない。具体的には、「子供主体の授業への転換」を今以上に進めることはもちろん、学校で身につけた知識や技能を生かして家庭学習をすすめられるような学習課題づくり、家庭学習の方法の模索を進めていかなければならない。
- ・保護者アンケートの課題は、調査結果とは関係ないが、Web 回答に切り替える中、どのように提出率を上げるか、ということである。学校教育に対して肯定的な意見のみ聞いていても、学校の課題は見えてこない。否定的な評価や苦言をどのように拾っていくか、調査方法の改善を検討する必要がある。
- ・その他、調査項目以外の課題として、不登校生徒への対応も喫緊の課題だと言える。「ふれあい教室」を準備し、学校での居場所づくりを進めてはいるが、学びの場（学習活動のみならず、人間関係の作り方、育て方を学ぶ場）としてふれあい教室を運営していく方策を検討することが必要になると考える。